総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
現代家族関係論			11365	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

家族についての基礎知識を習得する。現代社会における家族関係の問題に科学的に接近できる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

家族関係への科学的接近は、様々な専門分野から可能である。この講義では、主に家族社会学の立場から家族の諸相に接近を試みる。まず、家族についての基礎知識、家族関係の基本的問題を解説する。また、現代日本の家族が直面している問題をとりあげ、家族関係のあり方について考え議論する機会を設ける。さらに、家族の先端的研究を紹介するとともに、歴史学、人口学、心理学、人類学、法学などの隣接科学における家族研究の蓄積にも学ぶこととする。

授業計画

- 1 家族とは
- 2 家族に関する基礎知識 1
- 3 家族に関する基礎知識 2
- 4 配偶者の選択
- 5 結婚と夫婦関係
- 6 離婚・再婚と家族関係
- 7 ライフコースと家族
- 8 子どもの養育と家族関係 1
- 9 子どもの養育と家族関係 2
- 10 中年期の家族関係
- 11 高齢期の家族関係
- 12 家族に関する政策と法
- 13 家族と社会的ネットワーク
- 14 家族の変化と家族関係
- 15 まとめ

授業の方法

講義に加えて、プレゼンテーションやディスカッションをとり入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

森岡清美・望月嵩『新しい家族社会学』培風館

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「子ども家庭支援論」を履修する前に、この科目を履修することが望ましい。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会福祉論			11369	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
西橋 隆三	選択	2	元市職員(福祉事務所長・障がい児療育センター所長) 社会福祉士			

授業の到達目標

高齢化・少子化が同時進行している現代の社会状況の中で、福祉、介護、医療等の問題には誰もが直面することとなる。これらの福祉問題の内容を理解し深く考えていくことは、福祉の専門分野に携わっていくためには不可欠なことである。授業では社会福祉の理念、制度や援助などを広い視野から学び主体的に考える力を身に付ける。このクラスでは主にKAISEIパーソナリティのI（知性）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

授業では、社会福祉に関する基本的な項目を学習するとともに、最新のデータや資料によりわが国の社会福祉の動向や課題等を理解できるようにする。指定する教科書の構成に従い授業を進めるが、時事的な問題やキーワードとなる内容などは討議しながら内容を深めて確認する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 社会福祉とわたしたち
- 3 社会福祉の歴史の変遷
- 4 社会福祉の理念(意味と考え方)
- 5 現代社会の生活問題と社会福祉
- 6 社会福祉行政と実施体系
- 7 社会福祉と社会保障の制度(生活保護制度を中心に)
- 8 社会福祉の専門職
- 9 共生社会の実現と障害者施策
- 10 子ども家庭福祉と社会福祉
- 11 少子高齢社会と子育て支援
- 12 社会福祉における相談援助
- 13 社会福祉における利用者保護にかかわる仕組み及び医療福祉
- 14 社会福祉の課題(在宅・地域福祉)
- 15 まとめの講義とレポートの提出

授業の方法

講義を主体としながら視聴覚教材やディスカッションを取り入れていく。

準備学修

Webで確認すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、レポート70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は不合格とする。

テキスト

一瀬早百合「社会福祉とわたしたち」萌文書林 2022年
また、授業の中で必要な資料を配布する。

参考図書

必要な参考図書については授業の中で提示する。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
地域子育て支援 II		17503	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
渋谷 美智	選択	1	公立保育所保育士		

授業の到達目標

子育て支援とは何か。子育て支援に対する保育者の役割が明確化され、幼稚園や保育所で子育て支援について様々な場や対象に即した支援を行っている。その中で地域の子育て家庭に対する支援について、実践を通し具体的に理解し、積極的に取り組んでいける保育者を目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を考え、I（知性）を養う。

授業の概要

子育てを社会全体で支える「子ども・子育て支援新制度」がスタートし、幼稚園、保育所、地域で子育て支援が盛んに行われている状況の中、子育て支援とは何かを考え、保育者を目指している学生が何故子育て支援が必要なのか、親子が求める子育て支援とは何かを考え、親子が育ちあうような子育て支援のあり方を学習する。また、子育て支援の実践を積極的に体験する。

授業計画

- 1 地域子育て支援 I の振り返り。
- 2 地域子育て支援の取り組みへの参加(1)
- 3 地域子育て支援の取り組みへの参加(2)
- 4 地域子育て支援の取り組みへの参加(3)
- 5 地域子育て支援の取り組みへの参加(4)
- 6 地域子育て支援の取り組みへの参加(5)
- 7 地域子育て支援の取り組みへの参加(6)
- 8 振り返りとまとめ。

授業の方法

演習を中心とし、実際体験によって理解を深める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

必要資料については、随時プリントを配布する。

参考図書

子育ての変貌と次世代育成支援 原田正文著
世界に学ぼう！子育て支援 汐見稔幸著
地域で子育て 渡辺顕一郎編著
あそびうた大全集 永岡書店

留意事項

受講者は子育て支援に関心のあるもの。本学が行う子育て支援事業「海星子育てひろば」に参加し、実践を行い子育て支援の理解を深め、また、保育技術の向上を図る。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については、教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ボランティア論		17505	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
西橋 隆三	選択	2	元市職員(福祉事務所長・障がい児療育センター所長)、社会福祉士		

授業の到達目標

わが国のボランティア活動は、幅広い分野において多様な形態で展開されている。授業では、ボランティアの理念・原則・各分野の基本を学習しながら「興味」「関心のあるテーマ」などから主体的に多様なボランティア活動に参加することを目標とする。またボランティア論の講義を通じて、福祉の対象者への関心を高め、将来の社会参加や社会貢献に繋げることを目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）A（自律）S（奉仕）を養う。

授業の概要

授業では、講義、討議などを織り込みながら、参加のモチベーションを主体的に高めることを促す。「自分にとってのボランティアは何か」「どんな活動ができるか」「ボランティアのあり方は」「ボランティアの意義と課題」などを授業を通じて考えていく。まず基本理念や歴史、組織や活動の実際についての概略を学んだあと、人と未来防災センターやJICA関西での外部機関での学習により内容を深めていく。次に各分野のボランティア活動の現況を学び、社会福祉法人での授業やボランティア実習も行う。これらの多様な視点からの学びによりそれぞれにとってのボランティアの意義や参加意識を深めていくことがねらいである。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 ボランティアの基本理念(ボランティアを考えるために)
- 3 ボランティアの歴史
- 4 人と未来防災センター及びJICA関西(国際協力機構関西センター)での実習(土曜日)
- 5 災害とボランティア活動(阪神淡路大震災と東日本大震災など)
- 6 国際社会とボランティア活動(JICA関西の事業を中心に)
- 7 社会福祉施設でのボランティア活動
- 8 社会福祉施設での授業とボランティア実習 1
- 9 社会福祉施設での授業とボランティア実習 2
- 10 子どもの貧困とボランティア活動
- 11 環境問題とボランティア活動
- 12 地域社会とボランティア活動
- 13 医療福祉とボランティア活動
- 14 プレゼンテーション(ボランティア論で学んだことを発表)

15 まとめとしての講義の後、ボランティア論のレポート提出を求める。

授業の方法

講義を主体としながらディスカッション、プレゼンテーションや視聴覚教材を取り入れていく。また人と未来防災センターやJICA関西での学習、社会福祉施設での実習に参加する。

準備学修

Webで確認すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、プレゼンテーション10%、レポート60%で評価します。

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

特に指定はしない。必要な資料を配布する。

参考図書

必要な参考図書については授業の中で提示する。

留意事項

- 1.人と防災未来センター及び国際協力機構関西センターでの学習に参加すること(土曜日1回)
- 2.社会福祉法人での授業とボランティア活動を体験すること(土曜日1回)